



# 生産性向上支援訓練利用者の声

## 狭山工業団地工業会 様

利用コース：

『事故をなくす安全衛生活動』

支援の流れ：

平成30年2月に狭山商工会議所様から紹介して頂き、役員会で制度の内容を説明し、実施に至りました。



## 【事業主団体の声】 事業主アンケートにて高い評価をいただきました☆☆☆☆☆

狭山工業団地工業会は、昭和47年11月に設立され、現在会員数39企業を擁する埼玉県南西部に位置する工業会です。平成28年に事務局に就任して以来、これまでの工業会の活動（防犯活動や清掃活動他コミュニケーション中心）に加えて人材育成を軸とした能力開発を会員企業様に行い、人材のレベルアップを図ることで地域の活性化を実現したいと常々考えていました。

調度そのタイミングで、商工会議所から「生産性向上支援訓練」の制度の内容をお聞きしました。早速、工業会役員会の了承を得て本訓練を利用することを決めました。

事務局としては初めてことなので、分からない事が多くありましたが、受講者の参加意識を高める為の情報発信を心掛けました。その結果、16社、20名もの受講申し込みがありました。

訓練実施にあたっては、講師の先生と打合せを2、3回行うのと併せて、講師の先生が自ら事前にくつつかの受講企業を訪問され業種、事業内容等を調査したうえで訓練に臨まれました。十分な準備と経験豊富な講師の巧みな講義運営により、会員企業様にとって大きな効果が実感できるセミナーになったのではないかと、思います。

特に、グループワークでは活発な意見交換が行われグループ発表が実施されました。業務改善等において、異業種の方の意見を取り入れることで新しい発見や手法等が見つかったのではないかと考えます。

今後、工業会としてもこの制度の運用を単発で終わりにせず、継続して実施する事で、会員企業の“人材の質”を高め根拠を強くし、会員企業を活性化させたい。

会員企業の人材教育が加速的に行われ各企業の生産性が上がり企業業績が高まれば、それが地域のさらなる活性化に繋がると考えるからです。



松本 様

- ・安全性、生産性向上に役立つアイデアが見つかった。
- ・最近の会社の問題とフィットしていた。
- ・基本的な事の大切さを再認識できた。
- ・異業種でキャリアも違う方々とグループワーク出来勉強になった。
- ・実践的講習で興味深く楽しく受講出来た。

— 事業主アンケートより抜粋 —





# 生産性向上支援訓練利用者の声

【利用事業主の声】事業主アンケートにて高い評価をいただきました☆☆☆☆☆

## 八千代工業株式会社 柏原工場 様

工業会会長の立場と柏原工場工場長（執行役員 日本地域担当）の立場から2人の従業員と共に受講しました。

受講して感じたことは、弊社も普段から「安全衛生活動」や「生産性向上」に取り組む、不安要素不安因子を取り除こうと講習会等を行っています。しかし今回受講したセミナーは机上論だけでなく、自分たちに起こりうる事例を取り入れ、変化にとんだ形で受講者の興味を引く形での講習でした。

講師の先生は、事前に個々の企業の状況を調べて、事業内容や受講者の職種を知った上で講義を実施されていました。

“こうあるべき”とか“こうするべき”とか“べき論”で講義を進める講師が多い中、今回の先生はそうではなく、関心を持っていない受講者に対しても関心を持たせたり、講義に引き込む事の上手な方でした。

共に受講した2人の従業員は、他の従業員達にも機会があれば受講させた方が良いと言っていました。同じ考え方を持つ従業員を増やす事で会社の体質が変わる。個人が変わる事で会社の根底が強くなる。今回のセミナーはそのような考え方が再認識できた内容で良かったと思います。

今後について、柏原工場は、継続して人材育成・教育に力を入れ、他県に数ヶ所ある工場は、現地でこの制度を利用するか、埼玉で今回の講師に教育して頂くか検討していきたいと思います。工業会事務局から来年度の制度の利用に申請していると聞いていますので、今から、部門長、責任管理職を参加させたいと考えています。

工業会としては、継続して生産性向上支援訓練の制度を活用する事で会員企業が良くなり、地域の活性化が図れば良いと思います。



小川 様

## 【受講者の声】受講者アンケート評価(満足度100%)

※受講者アンケート設問2の回答が「①大変役に立った」及び「②役に立った」と回答した方の有効回答数に対する割合です。

## 株式会社DNPテクノパック 様

生産部門全体の支援、組合の副委員長の立場で“生産性向上”と“安全衛生活動”に係わりがあるため、知識を深める意味でセミナーを受講しました。

受講して感じたことは、通常講習会は“講師が資料を使って、事例を挙げながら対処法や改善活動を紹介して終わる”という認識でした。しかし、今回のセミナーは通常の講習とは違い、グループワーク中心で、6人のメンバー（異業種）が、各々の情報を共有しながらゴールに向かって答えを出していくというやり方でした。

6人がそれぞれ複数の違った意見（情報）を持っていて、その情報と情報が繋がり、点が線になる。その線が答えを導き出す。グループワークの本質（具体的にどう解決すべきか）が実感できるセミナーでした。

工場に置き換えた時、小さな班単位から大きな組織まで、課題を解決するためグループワークを行っていますが今一つ効果が出ないのはなぜかといつも感じていました。

今回の講義で、“リーダーは仕切るだけ”、“書記はまとめて書くだけ”、では意見や情報量が減り、答えを導き出すのに時間がかかったり、答えが出ないケースさえある。全員がリーダーであり、全員が聞き役である事で答えが導き出され、課題が解決されると強く感じました。又、それぞれの意見をお互いに否定しない事も重要な要素である事が分かりました。（リーダーが頭越しに意見に対して否定すると良い情報は得られない）課題を解決するのは管理職がやるわけでもリーダーがやるわけでもなく、みんなで取り組まないと解決もしないし、進化もしない事が今回の講義で確認できました。

今後、工場内・組合でグループディスカッションを行う時は、この経験を活かしグループワークの真の目的をアドバイスし、組織を通じて同じ経験を繰り返しさせていきたいと思ます。又、工業会で継続して生産性支援訓練の制度を利用する場合、積極的に参加し、従業員の育成・教育に取り組んでいきたいと思ます。



志村 様

